

第11回女性起業家大賞・グロース部門 優秀賞

子どもが安心して生きられる世界をつくりたい

特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト 代表理事 村田 早耶香



全ての子どもたちが希望を持って生きられる世界を目指し、
子どもが売られる問題の根本的な解決に取り組む

19歳のときに受けた衝撃

私たち「かものはしプロジェクト」は、カンボジアやインドで「子どもが売られる問題」をなくすために活動しています。

私がこの問題を初めて知ったのは19歳のとき。大学の授業で話を聞き、衝撃を受けました。それは、家計を助けるために出稼ぎに行った14歳の女の子が、だまされて強制的に売春宿で働かされ、エイズに感染して亡くなったという話でした。その子は「学校へ行って勉強してみたかった」との言葉を残したそうです。

自分の目で現状を確かめようと思った私は、その夏、タイのスタディーツアーに参加しました。被害に遭った子どもたちの保護施設を訪ね、5歳のエイズ孤児に会いました。その子の母親は17歳で売春宿に売られ、エイズに感染……その子も母子感染していたのです。何とかこの問題を解決したいと思い、帰国後、私は自分でできることを探しました。その中で、ともに人生の転機を迎えることとなる仲間で、今も共同代表をしている青木健太と本木恵介に出会ったのです。2002年、彼らとともに

に「かものはしプロジェクト」を設立しました。

子どもを「買わせない」 「売らせない」取り組み

私たちは、子どもが売られてしまう問題を解決するため、子どもが買われてしまう社会を根本的に変え、その効果が持続する取り組みを行っています。

1990年代から被害者の数が急激に増えたと言われているカンボジアでは、子どもを「買わせない・売らせない」ための活動を行っています。

買わせないための活動としては、ユニセフやカンボジア政府と協力し、警察官の訓練費用の補助や指導者の確保などに取り組んでいます。カンボジアでは、警察官が事件を摘発するための仕組みが不足していました。地方の警察に法律改正の情報が行き届かないことや、事件の証拠を押収するノウハウを知らないがために、加害者が無罪になってしまいうことがありました。今では、加害者の検挙率や売春宿の摘発件数は着実に増加しています。

売らせない活動としては、貧困

世帯の大人に就業の場を提供するため、民芸品工房を設立。商品の企画・開発・製造・販売を行うことで貧困の解決に取り組む、貧しさが原因で生じる子どもの出稼ぎを未然に防いでいます。

カンボジアで10年間活動を続ける中で、被害者の数は大幅に減りました。今日まで活動を続けられたのは、私たちの思いに共感し、子どもたちの未来を守ろうと支援してくださる方々がいてくださったからこそだと感謝しています。

次なるステップとして、「売られる子ども」の問題の被害者が多く存在するインドでの活動も始めました。現地のNGOとパートナーとなり、問題解決に取り組んでいます。

これからも「子どもが売られない世界をつくる」ために、全力で取り組んでいきます。



特定非営利活動法人
かものはしプロジェクト
(東京都渋谷区)
2002(平成14)年創業
<http://www.kamonohashi-project.net/>